授業科目	単位数	時間数	対象学年	学期
リハビリテーション概論	1	15	OT/PT 1年	前期
担当教員	授業形態		主な講義室	
河本玲子	講義		205・206 教室	
目 標	<p>リハビリテーションの理念と、リハビリテーション医学の特徴を理解する。 障害モデルと生活機能モデルを理解する。 リハビリテーション専門職とチームアプローチについて理解する。</p> <p>行動目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・リハビリテーションの理念を説明できる。 ・リハビリテーションの4つの分野を説明できる。 ・リハビリテーション医療の特徴を説明できる。 ・障害モデル（ICIDH）図が書ける。 ・障害モデルから生活機能モデルへの変化を説明できる。 ・ICFモデル（ICF）図がかける。 ・ICFの各用語が具体的にどのようなものが含まれるか説明できる。 ・チームアプローチとは何か説明できる。 ・代表的なリハビリテーション専門職とその役割について説明できる。 			
授 業 の 概 要	<ol style="list-style-type: none"> 1. リハビリテーションの歴史・定義等 2. リハの4分野・リハビリテーション医療の特徴 3. 疾病と障害構造（ICIDH） 4. 疾病と障害構造（ICF） 5. 疾病と障害構造（ICF） 6. 疾病と障害構造（ICF） 7. チームアプローチ 8. リハビリテーション専門職 			
教科書	<p>教科書 使用せず（適宜資料を配布する）</p> <p>参考図書</p> <p>セラピストのための概説リハビリテーション（文光堂）</p> <p>ICF 国際生活機能分類 国際障害分類改訂版（中央法規出版）</p>			
成 績 評 価 法	<p>受講態度、確認テスト等により総合的に評価する</p>			
備 考				

授業科目	単位数	時間数	対象学年	学期
心理学	2	30	OT/PT 1	前
担当教員	授業形態		主な講義室	
崎本 裕也	講義		205・206 教室	
目 標	<p>1. 心理学のエッセンスを習得する。</p> <p>2. 自らの専門領域において、本講義により学んだ心理学の知見を活かし、専門的かかわりの質を高める工夫をすることができる。</p>			
授 業 の 概 要	<ol style="list-style-type: none"> 1. ガイダンス、心理学とは 2. 知覚 3. 思考 4. 学習 5. 記憶 6. 感情、動機づけ 7. 知能 8. 性格 9. 発達① 10. 発達② 11. 発達③ 12. 自己 13. コミュニケーション 14. 集団 15. まとめ 			
教科書	レジメを配布する。			
成 績 評 価 法	定期試験、受講態度等で評価する。			
備 考				

授業科目	単位数	時間数	対象学年	学期
解剖学ⅢA	2	30	OT/PT 1年	前期
担当教員	授業形態		主な講義室	
石丸 拓也・松原 早苗	講義		基礎医学実習室	
目 標	<p>解剖学は、人体の構造と機能を理解する学問であり医学の基礎となっている。本講義では、運動器系の基本となる骨と関節について以下を目標に学習する。</p> <p>①骨：名称と部位名称を覚え、骨模型で説明できる</p> <p>②骨の構造上の特徴を覚え、説明できる</p>			
授 業 の 概 要	<ol style="list-style-type: none"> 1. 解剖学総論 2. 骨学総論（骨格系） 3. 全身の骨格 4. 骨と関節 1（寛骨） 5. 骨と関節 2（大腿骨・膝蓋骨） 6. 骨と関節 3（脛骨・腓骨） 7. 骨と関節 4（足の骨） 8. 骨と関節 5（鎖骨・肩甲骨） 9. 骨と関節 6（上腕骨） 10. 骨と関節 7（尺骨・橈骨） 11. 骨と関節 8（手の骨） 12. 骨と関節 9（椎骨・仙骨・尾骨） 13. 骨と関節 10（胸骨・肋骨） 14. 骨と関節 11（頭蓋骨） 15. 骨まとめ 			
教科書	<p>教科書：解剖学 基礎と臨床に役立つⅠ背部・上肢・下肢 西村書店 PTOT 基礎固めヒント式トレーニング 基礎医学編 南江堂</p> <p>参考書：解剖学講義 南山堂 系統看護学講座専門基礎分野 解剖生理学 人体の構造と機能① 医学書院</p>			
成 績 評 価 法	<p>成績評価は、小テスト・期末テスト等で評価する また、標本を用いて口頭試問を実施する</p>			
備 考	<p>人体模型・骨格標本等を利用する。 解剖学Ⅰ・Ⅱ・ⅢA・ⅢBは、それぞれ1科目として出席・成績を取り扱う。 上肢担当：石丸、総論・下肢・体幹担当：松原</p>			

授業科目	単位数	時間数	対象学年	学期
解剖学ⅢB	2	30	OT/PT 1年	前期
担当教員	授業形態		主な講義室	
石丸 拓也・松原 早苗	講義		基礎医学実習室	
目 標	<p>解剖学は、人体の構造と機能を理解する学問であり医学の基礎となっている。本講義では、運動器系の基本となる筋について以下を目標に学習する。</p> <p>①筋：筋の名称、起始、停止、作用、神経支配を覚え、筋模型で説明できる ②筋の構造上の特徴を覚え、説明できる</p>			
授 業 の 概 要	<ol style="list-style-type: none"> 1. 筋学総論 2. 上肢の筋 (1)：上肢帯の筋 3. 上肢の筋 (2)：肩関節の筋 4. 上肢の筋 (3)：肘関節の筋 5. 上肢の筋 (4)：手関節・手指の筋 6. 上肢の筋のまとめ 7. 下肢の筋 (1)：下肢帯の筋 8. 下肢の筋 (2)：股関節の筋 9. 下肢の筋 (3)：膝関節の筋 10. 下肢の筋 (4)：足関節の筋 11. 下肢の筋のまとめ 12. 頭頸部の筋 13. 体幹の筋 (1)：背部の筋 14. 体幹の筋 (2)：腹部の筋 15. 頭頸部・体幹筋のまとめ 			
教科書	<p>教科書：プロメテウス解剖学コアアトラス 医学書院 PTOT 基礎固めヒント式トレーニング 基礎医学編 南江堂</p> <p>参考書：解剖学講義 南山堂 系統看護学講座専門基礎分野 解剖生理学 人体の構造と機能① 医学書院</p>			
成 績 評 価 法	成績評価は、小テスト・期末テスト等で評価する			
備 考	<p>人体模型・筋標本等を利用する。 解剖学Ⅰ・Ⅱ・ⅢA・ⅢBは、それぞれ1科目として出席・成績を取り扱う。 上肢担当：石丸、総論・下肢・体幹担当：松原</p>			

授業科目	単位数	時間	対象学年	学期																														
解剖学実習	2	60	OT/PT 1年	後期																														
担当教員	授業形態		主な講義室																															
石丸 拓也・濱本 尊博・松原 早苗	実習		治療室																															
目 標	<p>医療の対象であるヒトを理解するためには、人体の構造と機能の学習がその第一歩となる。この実習では、以下を目標に学習する。</p> <p>①人体の器官・器官系の観察をする。</p> <p>②評価・治療の指標となる骨を正確に触察できる。</p> <p>③筋を正確に触察できる。</p>																																	
授 業 の 概 要	<table border="0"> <tr> <td>1. 人体解剖学見学実習 (内臓)</td> <td>16. 触察：前腕の筋</td> </tr> <tr> <td>2. 人体解剖学見学実習 (内臓)</td> <td>17. 前腕の筋</td> </tr> <tr> <td>3. 人体解剖学見学実習 (脳)</td> <td>18. 前腕の筋</td> </tr> <tr> <td>4. 人体解剖学見学実習 (脳)</td> <td>19. 前腕の筋</td> </tr> <tr> <td>5. 触察：頭部・体幹の骨の触診</td> <td>20. 触察：上肢・体幹 まとめ</td> </tr> <tr> <td>6. 触察：上肢の骨の触診</td> <td>21. 触察：下肢① 骨・靭帯の触察</td> </tr> <tr> <td>7. 触察：頭部・体幹・上肢 まとめ</td> <td>22. 触察：下肢② 股関節の筋</td> </tr> <tr> <td>8. 触察：頸部・腹部の筋</td> <td>23. 触察：下肢③ 股関節の筋</td> </tr> <tr> <td>9. 触察：頸部・腹部の筋</td> <td>24. 触察：下肢④ 膝関節の筋</td> </tr> <tr> <td>10. 触察：上肢帯の筋</td> <td>25. 触察：下肢⑤ 膝関節の筋</td> </tr> <tr> <td>11. 触察：上肢帯の筋</td> <td>26. 触察：下肢⑥ 膝関節の筋</td> </tr> <tr> <td>12. 触察：背部の筋</td> <td>27. 触察：下肢⑦ 足関節の筋</td> </tr> <tr> <td>13. 触察：背部の筋</td> <td>28. 触察：下肢⑧ 足関節の筋</td> </tr> <tr> <td>14. 触察：上腕の筋</td> <td>29. 触察：下肢⑨ 足関節の筋</td> </tr> <tr> <td>15. 触察：上腕の筋</td> <td>30. 触察：下肢 まとめ</td> </tr> </table>				1. 人体解剖学見学実習 (内臓)	16. 触察：前腕の筋	2. 人体解剖学見学実習 (内臓)	17. 前腕の筋	3. 人体解剖学見学実習 (脳)	18. 前腕の筋	4. 人体解剖学見学実習 (脳)	19. 前腕の筋	5. 触察：頭部・体幹の骨の触診	20. 触察：上肢・体幹 まとめ	6. 触察：上肢の骨の触診	21. 触察：下肢① 骨・靭帯の触察	7. 触察：頭部・体幹・上肢 まとめ	22. 触察：下肢② 股関節の筋	8. 触察：頸部・腹部の筋	23. 触察：下肢③ 股関節の筋	9. 触察：頸部・腹部の筋	24. 触察：下肢④ 膝関節の筋	10. 触察：上肢帯の筋	25. 触察：下肢⑤ 膝関節の筋	11. 触察：上肢帯の筋	26. 触察：下肢⑥ 膝関節の筋	12. 触察：背部の筋	27. 触察：下肢⑦ 足関節の筋	13. 触察：背部の筋	28. 触察：下肢⑧ 足関節の筋	14. 触察：上腕の筋	29. 触察：下肢⑨ 足関節の筋	15. 触察：上腕の筋	30. 触察：下肢 まとめ
1. 人体解剖学見学実習 (内臓)	16. 触察：前腕の筋																																	
2. 人体解剖学見学実習 (内臓)	17. 前腕の筋																																	
3. 人体解剖学見学実習 (脳)	18. 前腕の筋																																	
4. 人体解剖学見学実習 (脳)	19. 前腕の筋																																	
5. 触察：頭部・体幹の骨の触診	20. 触察：上肢・体幹 まとめ																																	
6. 触察：上肢の骨の触診	21. 触察：下肢① 骨・靭帯の触察																																	
7. 触察：頭部・体幹・上肢 まとめ	22. 触察：下肢② 股関節の筋																																	
8. 触察：頸部・腹部の筋	23. 触察：下肢③ 股関節の筋																																	
9. 触察：頸部・腹部の筋	24. 触察：下肢④ 膝関節の筋																																	
10. 触察：上肢帯の筋	25. 触察：下肢⑤ 膝関節の筋																																	
11. 触察：上肢帯の筋	26. 触察：下肢⑥ 膝関節の筋																																	
12. 触察：背部の筋	27. 触察：下肢⑦ 足関節の筋																																	
13. 触察：背部の筋	28. 触察：下肢⑧ 足関節の筋																																	
14. 触察：上腕の筋	29. 触察：下肢⑨ 足関節の筋																																	
15. 触察：上腕の筋	30. 触察：下肢 まとめ																																	
教科書	<p>【教科書】</p> <p>機能解剖学的触診技術 上肢 (メジカルビュー社)</p> <p>機能解剖学的触診技術 下肢・体幹 (メジカルビュー社)</p> <p>【参考書】</p> <p>プロメテウス解剖学コアアトラス (医学書院)</p> <p>基礎運動学 (医学書院)</p>																																	
成 績 評 価 法	<p>人体解剖学見学実習については、事前学習・課題・レポートを課す。</p> <p>骨および筋の触察について実技試験テストを実施し、授業態度や必要に応じてレポートなどを課し、総合的に評価する。</p>																																	
備 考	<p>体表面を直接観察することに適する服装で参加すること。詳細については適宜連絡する。実技授業であるため、節度をもったより能動的な参加を望む。</p>																																	

授業科目	単位数	時間	対象学年	学期
生理学 I B	2	30	OT/PT 1	後期
担当教員	授業形態		主な講義室	
美津島 大・石川 淳子	講義		205・206 教室	
目 標	植物性機能として、消化と吸収、腎臓と排泄、内分泌、性と生殖を学ぶ。これらは健康維持や疾患の理解に重要であり、基礎的な知識の習得を期待する。			
授 業 の 概 要	(1) 消化・吸収 (石川) (2) 消化液の分泌 (石川) (3) 消化管運動 (石川) (4) 腎臓・ネフロン (美津島) (5) 尿生成・腎機能 (美津島) (6) 尿成分・排尿 (美津島) (7) 酸-塩基平衡 (美津島) (8) 内分泌・ホルモン作用様式 (美津島) (9) 視床下部-下垂体系 (美津島) (10) 甲状腺・カルシウム代謝 (美津島) (11) 膵臓・糖尿病 (美津島) (12) 副腎皮質・副腎髄質 (美津島) (13) 精巣・卵巣 (美津島) (14) 男性の生殖機能 (美津島) (15) 女性の生殖機能 (美津島)			
教科書	系統看護学講座 専門基礎分野 解剖生理学 人体の構造と機能① (医学書院)			
成 績 評 価 法	期末テスト 生理学 I A ・ I B ・ II ・ III はそれぞれ個別に評価する。			
備 考				

授業科目	単位数	時間	対象学年	学期
生理学Ⅱ	2	30	OT/PT 1	前期
担当教員	授業形態		主な講義室	
中村 彰治	講義		205・206 教室	
目 標	人の脳は身体内外の環境変化を受入れ、それに対処するために種々の生理的反応や適応的、さらには創造的な行動をひき起こす。これらの生体機能がどのようにして調節されているかを理解するために、神経系の基本的な働きとさらに高次な働きについて学習する。			
授 業 の 概 要	<ol style="list-style-type: none"> 1. 脳・神経の形態 2. 静止電位と活動電位 3. シナプス伝達 4. 脊髄と脳（1） 5. 脊髄と脳（2） 6. 脳の高次機能（睡眠・覚醒） 7. 脳の高次機能（記憶・言語） 8. 脳の高次機能（本能行動・情動行動） 9. 運動系 10. 体性感覚系 11. 視覚系（1） 12. 視覚系（2） 13. 聴覚・平衡覚 14. 味覚・嗅覚・痛覚 15. 脳神経系の疾患 			
教科書	系統看護学講座 専門基礎分野 解剖生理学 人体の構造と機能①（医学書院）			
成 績 評 価 法	<p>期末テスト</p> <p>生理学ⅠA・ⅠB・Ⅱ・Ⅲはそれぞれ個別に評価する。</p>			
備 考				

授業科目	単位数	時間	対象学年	学期
ソーシャルスキル論	2	30	OT/PT 1	前
担当教員	授業形態		主な講義室	
山下 清可	講義、演習		205・206 教室	
目 標	<ol style="list-style-type: none"> 1 人間関係を作る上で必要な社会性について知り、自分の課題が言語化できる。 2 授業での演習を通して、自己理解を深める。 3 場面に応じたコミュニケーションスキルについて学び、演習を行うことで社会人基礎力（3つの能力）向上に繋げることができる。 4 場面に応じたコミュニケーションスキルについて学び、演習を行うことで自分も他人も大切にしたい自己表現を意識して使えるようになる。 			
授 業 の 概 要	<ol style="list-style-type: none"> 1 社会人基礎力とは 2 コミュニケーションの基本と種類 3 傾聴 4 信頼関係作り（ラポール形成） 5 接遇マナー（挨拶、身だしなみ、電話対応など） 6 適切な日本語表現（敬語の使い方、ビジネス用語など） 7 報告・連絡・相談 8 ヘルプとサポートの違い 9 セルフマネジメント 10 レポート・小論文の書き方 11 手紙、はがき（お礼状）の書き方 12 アサーティブコミュニケーション 13 医療現場におけるコミュニケーション 14 プレゼンテーション① 15 プレゼンテーション② 			
教科書	授業の内容に合わせて資料を配布する			
成 績 評 価 法	試験と授業態度で総合評価（試験 80%、提出物・授業態度・その他 20%）			
備 考				

授業科目	単位数	時間	対象学年	学期
医療倫理学	2	30	OT/PT 1年	後期
担当教員	授業形態		主な講義室	
星野 晋	講義		205・206 教室	
目 標	<p>今日医療者がなぜ倫理を求められているかを理解した上で、医療倫理の基本的な視点、概念、さまざまな倫理課題について学習する。とりわけ病者の思考や行動様式を社会・文化的視点あるいは生活者の視点から理解し、医療者と病者・その家族の関係のあり方、そこに見いだされる倫理的課題について検討する。</p>			
授 業 の 概 要	<ol style="list-style-type: none"> 1) オリエンテーション：医療倫理とはいかなる分野か？ 2) ディスカッション：脳死と臓器移植 3) 臓器移植法と倫理 4) 患者の自己決定権とインフォームド・コンセント 5) 文化摩擦としての輸血拒否 6) 解剖実習にみる西洋医学・医療の思想 7) 文化と医療：国際保健と文化摩擦 8) 文化と医療：病気とは何か？ 9) サファリングとケアリング 10) 病むことの語り 11) 生活者と医療専門職が会うところ 12) 超高齢社会と保健・医療 13) 作られた健康、創り出す健康 14) 事例検討 15) 総括・振り返り 			
教科書	使用しない。参考文献は授業中に提示する。			
成 績 評 価 法	試験、コメントシート、グループワークにより評価する			
備 考				

授業科目	単位数	時間数	対象学年	学期
運動学 I	1	15	OT/PT 1年	後期
担当教員	授業形態		講義室	
上田 真寿美・加藤 善範	講義		205・206 教室	
目 標	運動とは何か、運動学とは何かについて、その領域と現状、展望について理解する。また、生体力学は高年次の専門につながるよう、その基礎をしっかりと理解する。その応用として、姿勢、歩行、走行についても学ぶ。			
授 業 の 概 要	1. 運動学とは：領域、歴史、現状と展望、身体運動のとらえ方など運動学の概要 2. 生体力学の基礎： <ul style="list-style-type: none"> 1) 身体運動と力学（生体力学的アプローチ、運動学と時間学） 2) 時間と空間（時間、空間、身体運動の面と軸） 3. 生体力学の基礎： <ul style="list-style-type: none"> 1) 運動の観測（運動軌道とグラフ表示） 2) 運動学的分析（変位、速度、加速度とその関係） 4. 生体力学の基礎： <ul style="list-style-type: none"> 1) 円運動（並進・回転運動、角速度と角加速度） 2) 筋力と重力（筋の活動張力と重力、ベクトル） 5. 生体力学の基礎： <ul style="list-style-type: none"> 1) モーメント 2) 運動法則（運動法則、質量・力の単位、重心の運動） 6. 生体力学の基礎： <ul style="list-style-type: none"> 1) 仕事とエネルギー 2) 身体とてこ 7. 生体力学の基礎：1) 骨と関節の運動 姿勢：姿勢の制御、重心、姿勢の種類 8. 歩行と走行：歩行・走行と運動学、年代別の歩行・走行等			
教科書	基礎運動学（医歯薬出版株式会社） その他、随時資料を配布する。			
成 績 評 価 法	レポートと試験により評価する。 運動学 I・II・IIIの出席・成績はそれぞれ1科目として個別に取り扱う			
備 考	1, 7, 8（上田）、2～6（加藤）担当			

	授業科目	単位数	時間	対象学年	学期																														
	英語 I・II	4	60	OT/PT 1	前後																														
	担当教員	授業形態		主な講義室																															
	上田 由紀・竹山 恵里	講義		207・502 教室																															
目 標	英語の聞き取り能力や表現能力を養い、そして国際語（英語）による総合的なコミュニケーション能力を高めることを目標とする。 1. Native speaker の表現を理解できるようにする。 2. 医療の場面での簡単な英会話を学ぶ。																																		
授 業 の 概 要	<table border="1"> <tbody> <tr> <td>1. クラス分け試験 (A・Bの2クラスに分け、以下の内容を学習)</td> <td>16. Communication in the Real World Unit8</td> </tr> <tr> <td>2. Communication in the Real World Unit1</td> <td>17. Communication in the Real World Unit9</td> </tr> <tr> <td>3. Communication in the Real World Unit2</td> <td>18. Communication in the Real World Unit10</td> </tr> <tr> <td>4. Communication in the Real World Unit3</td> <td>19. Communication in the Real World Unit11</td> </tr> <tr> <td>5. Communication in the Real World Unit4</td> <td>20. Communication in the Real World Unit12</td> </tr> <tr> <td>6. Communication in the Real World Unit5</td> <td>21. Communication in the Real World Unit13</td> </tr> <tr> <td>7. Communication in the Real World Unit6</td> <td>22. Communication in the Real World Unit14</td> </tr> <tr> <td>8. Communication in the Real World Unit7</td> <td>23. How are you feeling today? Lesson7 もしくはTOEIC まとめ</td> </tr> <tr> <td>9. How are you feeling today? Lesson1</td> <td>24. How are you feeling today? Lesson7</td> </tr> <tr> <td>10. How are you feeling today? Lesson1・2</td> <td>25. How are you feeling today? Lesson8</td> </tr> <tr> <td>11. How are you feeling today? Lesson3</td> <td>26. How are you feeling today? Lesson9</td> </tr> <tr> <td>12. How are you feeling today? Lesson3・4</td> <td>27. How are you feeling today? Lesson10</td> </tr> <tr> <td>13. How are you feeling today? Lesson4</td> <td>28. How are you feeling today? Lesson11</td> </tr> <tr> <td>14. How are you feeling today? Lesson5</td> <td>29. How are you feeling today? Lesson12</td> </tr> <tr> <td>15. How are you feeling today? Lesson6</td> <td>30. How are you feeling today? まとめ</td> </tr> </tbody> </table>					1. クラス分け試験 (A・Bの2クラスに分け、以下の内容を学習)	16. Communication in the Real World Unit8	2. Communication in the Real World Unit1	17. Communication in the Real World Unit9	3. Communication in the Real World Unit2	18. Communication in the Real World Unit10	4. Communication in the Real World Unit3	19. Communication in the Real World Unit11	5. Communication in the Real World Unit4	20. Communication in the Real World Unit12	6. Communication in the Real World Unit5	21. Communication in the Real World Unit13	7. Communication in the Real World Unit6	22. Communication in the Real World Unit14	8. Communication in the Real World Unit7	23. How are you feeling today? Lesson7 もしくはTOEIC まとめ	9. How are you feeling today? Lesson1	24. How are you feeling today? Lesson7	10. How are you feeling today? Lesson1・2	25. How are you feeling today? Lesson8	11. How are you feeling today? Lesson3	26. How are you feeling today? Lesson9	12. How are you feeling today? Lesson3・4	27. How are you feeling today? Lesson10	13. How are you feeling today? Lesson4	28. How are you feeling today? Lesson11	14. How are you feeling today? Lesson5	29. How are you feeling today? Lesson12	15. How are you feeling today? Lesson6	30. How are you feeling today? まとめ
1. クラス分け試験 (A・Bの2クラスに分け、以下の内容を学習)	16. Communication in the Real World Unit8																																		
2. Communication in the Real World Unit1	17. Communication in the Real World Unit9																																		
3. Communication in the Real World Unit2	18. Communication in the Real World Unit10																																		
4. Communication in the Real World Unit3	19. Communication in the Real World Unit11																																		
5. Communication in the Real World Unit4	20. Communication in the Real World Unit12																																		
6. Communication in the Real World Unit5	21. Communication in the Real World Unit13																																		
7. Communication in the Real World Unit6	22. Communication in the Real World Unit14																																		
8. Communication in the Real World Unit7	23. How are you feeling today? Lesson7 もしくはTOEIC まとめ																																		
9. How are you feeling today? Lesson1	24. How are you feeling today? Lesson7																																		
10. How are you feeling today? Lesson1・2	25. How are you feeling today? Lesson8																																		
11. How are you feeling today? Lesson3	26. How are you feeling today? Lesson9																																		
12. How are you feeling today? Lesson3・4	27. How are you feeling today? Lesson10																																		
13. How are you feeling today? Lesson4	28. How are you feeling today? Lesson11																																		
14. How are you feeling today? Lesson5	29. How are you feeling today? Lesson12																																		
15. How are you feeling today? Lesson6	30. How are you feeling today? まとめ																																		
教科書	A, Bクラス ① Communication in The Real World ② How are you feeling today? ※全クラス英和辞書持参の事																																		
成 績 評 価 法	試験により評価する。 前期・後期にそれぞれ個別に評価する。																																		
備 考																																			

授業科目	単位数	時間	対象学年	学期
解剖学Ⅰ（内臓系）	2	30	OT/PT 1	前
担当教員	授業形態		主な講義室	
中村教泰 山口和人 澤田知夫	講義		205・206 教室	
目 標	医療の対象であるヒトを理解するためには、人体の構造と機能の学習がその第一歩となる。この講義では、人体を構成する組織と細胞、循環器系、呼吸器系、消化器系、泌尿器系、生殖器系、内分泌系、免疫系、及びヒトの発生学について学ぶ。			
授 業 の 概 要	<p>I.</p> <p>1) 形態学総論 (解剖学とは、細胞について)</p> <p>2) 体をつくる組織 (四大組織：上皮・支持組織・筋・神経)</p> <p>3) 内臓学総論 (筋膜、体腔、間膜など)</p> <p>4) 呼吸器 (鼻、咽頭・喉頭、気管・気管支、肺)</p> <p>5) 循環器 1 (心臓について)</p> <p>6) 循環器 2 (血管の構造、動脈系、静脈系)</p> <p>7) 消化器 1 (口とその周辺、咽頭、食道)</p> <p>8) 消化器 2 (胃と腸について)</p> <p>9) 消化器 3 (肝臓、胆嚢、膵臓)</p> <p>10) 内分泌 (下垂体、甲状腺、上皮小体、ラ氏島、副腎など)</p> <p>11) 免疫系 (白血球、リンパ節、胸腺、脾臓、扁桃など)</p> <p>12) 泌尿器 (腎臓、尿管、膀胱、尿道)</p> <p>13) 男性生殖器 (生殖器の発生、精巣、精管、精嚢、前立腺など)</p> <p>14) 女性生殖器 1 (卵巣、卵管、子宮)</p> <p>15) 女性生殖器 2 (卵細胞と受精、着床と胎盤、胎児発生ほか)</p>			
教科書	系統看護学講座 専門基礎分野 解剖生理学 「人体の構造と機能」医学書院			
成 績 評 価 法	期末テストにより評価する。			
備 考	解剖学Ⅰ・Ⅱ・ⅢA・ⅢBは、それぞれ1科目として出席・成績を取り扱う。			

授業内容

解剖学 I

・内容 解剖学／内臓系

・90分 x 15コマ

- 1) 内臓学概論、呼吸器 1 (鼻・上気道)
- 2) 呼吸器 2 (下気道・肺)
- 3) 循環器 1 (血管系の構造、心臓)
- 4) (動脈系)
- 5) 循環器 3 (静脈系)
- 6) 消化器 1 (消化器系概論、口、唾液腺)
- 7) 消化器 2 (食道、胃)
- 8) 消化器 3 (小腸、大腸、肛門)
- 9) 消化器 4 (肝臓、胆嚢、膵臓)
- 10) 泌尿器 (腎臓、尿管、膀胱、尿道)
- 11) 生殖器 1 (男性生殖器)
- 12) 生殖器 2 (女性生殖器)
- 13) 発生 (女性生殖器、発生)
- 14) 内分泌系
- 15) 免疫系

授業科目	単位数	時間	対象学年	学期
解剖学Ⅱ（神経系）	2	30	OT/PT 1	前
担当教員	授業形態		主な講義室	
篠田 晃	講義		205・206 教室	
目 標	<p>解剖学Ⅱでは、形態学的側面から脳、脊髄、末梢神経系を学ぶ。 感覚器（目、耳、皮膚、鼻、舌）で感知した内部及び外部環境の変化情報を神経系が処理して、効果器（筋・器官、腺など）の適切な反応を生み出す機構を学ぶが、認知・学習・記憶などのいわゆる「高次機能」についても学ぶ。</p>			
授 業 の 概 要	<ol style="list-style-type: none"> 1. 神経系の概要：脳室・脳脊髄液、脳髄膜、発生・細胞分化 2. 脊髄と末梢神経系 3. 外部環境の情報入力系 1：体性感覚伝導路 4. 外部環境の情報入力系 2：視覚伝導路 5. 外部環境の情報入力系 3：聴覚・平衡覚伝導路 6. 外部環境の情報入力系 4：嗅覚伝導路・味覚伝導路 7. 内部環境情報の入出力系：自律神経系・内臓感覚入力 8. 脳神経と脳神経核 1 9. 脳神経と脳神経核 2 10. 小脳 11. 大脳基底核 12. 運動系の階層構造：いわゆる錘体路・錐体外路系 13. 視床下部 14. 大脳辺縁系 15. 大脳皮質と高次機能 			
教科書	神経解剖学カラーテキスト（医学書院）解剖生理学（医学書院）			
成 績 評 価 法	期末テストにより評価する。			
備 考	解剖学Ⅰ・Ⅱ・ⅢA・ⅢBは、それぞれ1科目として出席・成績を取り扱う。			

授業科目		単位数	時間	対象学年	学期
基礎科学		2	30	OT/PT 1	後期
担当教員		授業形態		主な講義室	
梅村 英里世・木田 裕之		講義		205・206 教室	
目 標	<p>人体の運動の専門家（理学療法士・作業療法士）を目指す君たちはこれから人体の仕組みや働きを学ぶことになる。本科目ではそれらの知識の根底になる生物学、物理学そして化学について学ぶ。</p> <p>1. 人体を含め、身のまわりの自然現象に関心を持つ</p> <p>2. 科学の基本的要素を身につける。 知識・考え方・計算など</p>	<p>生物学は生命現象をあつかう学問である。この授業では、細胞生物学、発生生物学、分子生物学、免疫生物学に重点を置き、“ヒトの生物学”に関する理解を深める。</p>			
授 業 の 概 要	<ul style="list-style-type: none"> ・物理量の表し方 ・運動 ・力と運動の法則 ・仕事とエネルギー 	<ul style="list-style-type: none"> ・生物の成り立ち；生物とは何か？ ・体のつくり；体を作る様々な器官や組織 ・タンパク質の役割；生命を支える物質 ・エネルギー代謝；生きているとはどういうことか？ ・遺伝子としてのDNA；からだの設計図 ・遺伝子と細胞の操作；遺伝子はどのように役に立っているか 			
教科書	講義中適宜資料配布する。	解剖生理学（医学書院）			
成 績 評 価 法	定期試験とレポートにより評価する	（中間テスト） 期末テストにより評価する			
備 考	<p>わからないことがあれば、授業中でも手を挙げて質問すること。</p> <p>インターネット上には、たくさんの物理現象の画像や説明があるのでぜひ参考にしてほしい。</p>	<p>参考書</p> <ul style="list-style-type: none"> ・視覚でとらえるフォトサイエンス 生物 図録（数研出版） ・好きになる免疫学（講談社） ・よく分かる分子生物学の基本としくみ（秀和システム） ・知っておきたい生物の基本ノート（生化学・分子生物学）（中経出版） ・知っておきたい生物の基本ノート（細胞生物学・遺伝学）（中経出版） 			

授業科目	単位数	時間	対象学年	学期
情報処理	2	30	OT/PT 1	前
担当教員	授業形態		主な講義室	
河本 隆	講義		パソコン教室	
目 標	<ul style="list-style-type: none"> ・パソコン及び Windows の基礎知識と操作方法の習得 ・応用技術としての文書処理 (Word)、表計算処理 (Excel)、プレゼンテーション資料作成 (PowerPoint) を習得する。 			
授 業 の 概 要	<ol style="list-style-type: none"> 1. パソコンの基礎知識 2. Windows の基礎知識と操作 3. 文字入力の基本操作 4. 文書作成の基礎① 5. 文書作成の基礎② 6. 文書作成の基礎③ 7. 表計算処理の基礎① 8. 表計算処理の基礎② 9. 表計算処理における関数利用とグラフ作成① 10. 表計算処理における関数利用とグラフ作成② 11. 表計算処理における関数利用とグラフ作成③ 12. 表計算処理における関数利用とグラフ作成④ 13. プレゼンテーション資料の作成基礎① 14. プレゼンテーション資料の作成基礎② 15. プレゼンテーション資料の作成基礎③ 			
教科書	実教出版 30 時間でマスターOffice2010			
成 績 評 価 法	授業態度、課題提出状況及び試験結果をもって総合評価			
備 考				

授業科目	単位数	時間	対象学年	学期
生理学 I A	2	30	OT/PT 1	前期
担当教員	授業形態		主な講義室	
木田 裕之	講義		205・206 教室	
目 標	人体を構成する細胞の一般的な構造と機能を学び、その基礎的な知識に基づいて、呼吸機能や血液の機能、血液循環とその調節について理解する。			
授 業 の 概 要	<ul style="list-style-type: none"> (1) 生理学とホメオスタシス (2) 細胞と内部環境 (3) 呼吸器の構造と呼吸の仕組み (4) 肺活量／呼吸ガスと血液ガス (5) 肺呼吸の調節機構 (6) 血液の組成と機能／血液の凝固と血液型 (7) 白血球のはたらき (8) 心臓の構造と血液循環 (9) 心臓の興奮と伝播／心電図 (10) 末梢循環系、解剖が中心 (11) 血液循環の調節 (12) 血管系の病気 (13) 体液の調節 (1) (14) 体液の調節 (2) (15) 運動と血液循環 			
教科書	系統看護学講座 専門基礎分野 解剖生理学 人体の構造と機能① (医学書院)			
成 績 評 価 法	<p>期末テスト</p> <p>生理学 I A ・ I B ・ II ・ III はそれぞれ個別に評価する。</p>			
備 考				

授業科目	単位数	時間	対象学年	学期
生理学Ⅲ	2	30	OT/PT 1	後期
担当教員	授業形態		主な講義室	
上田 真寿美・坂田 義行	講義		205・206 教室	
目 標	骨格筋について、その構造、収縮メカニズム、収縮種類を理解する。また、運動生理では、体力の概要を学び、運動処方基礎について学び高年次へつなげる。			
授 業 の 概 要	<ol style="list-style-type: none"> 1. 骨格筋①：骨格筋の構造、血管 2. 骨格筋②：骨格筋の微細構造、筋収縮のメカニズム 3. 骨格筋③：筋収縮の種類と特性 4. 骨格筋④：不随意筋の収縮の特徴（心筋、平滑筋） 5. 骨格筋⑤：骨格筋のまとめ 6. 運動生理①：体力とは、身体運動のエネルギー代謝 7. 運動生理②：運動処方（基礎と理論） 8. 運動生理③：運動処方（実際） 9. 運動生理④：運動処方（訓練の諸原理、まとめ） 10. 運動学習①：学習と記憶、学習の諸理論 11. 運動学習②：運動学習の諸理論、運動技能、練習と訓練 12. 深部体温、体温のサーカディアンリズム 13. 熱産生と熱放散 14. 体温調節のメカニズムと発熱 15. 発汗、エネルギー代謝 			
教科書	系統看護学講座 専門基礎分野 解剖生理学 人体の構造と機能①（医学書院） 基礎運動学（医歯薬出版株式会社）			
成 績 評 価 法	レポートと試験による 生理学ⅠA・ⅠB・Ⅱ・Ⅲはそれぞれ個別に評価する。			
備 考				

授業科目	単位数	時間数	対象学年	学期																											
生理学実習	2	60	OT/PT 1年	後期																											
担当教員	授業形態		主な講義室																												
山本 悟 他	実習		基礎医学実習室/治療室他																												
目 標	ヒトを用いた生理学実習を行い、得られた情報から人体の機能を評価できる。																														
授 業 の 概 要	<table border="0"> <tr> <td>1～4.</td> <td>筋力</td> <td>山本 悟</td> </tr> <tr> <td>5～8.</td> <td>持久力</td> <td>山本 悟</td> </tr> <tr> <td>9～10.</td> <td>平衡機能</td> <td>鹿毛治子</td> </tr> <tr> <td>11～14.</td> <td>呼吸機能</td> <td>濱本尊博</td> </tr> <tr> <td>15～16.</td> <td>体性感覚</td> <td>鹿毛治子</td> </tr> <tr> <td>17～18.</td> <td>血圧、脈拍</td> <td>上原奈緒子</td> </tr> <tr> <td>19～22.</td> <td>筋電図(表面筋電図、誘発筋電図)</td> <td>藤井昭宏</td> </tr> <tr> <td>23～26.</td> <td>心電図</td> <td>清水昭彦、田中伸明</td> </tr> <tr> <td>27～30.</td> <td>尿検査、血糖値検査</td> <td>岡野こずえ、山本美佐</td> </tr> </table>				1～4.	筋力	山本 悟	5～8.	持久力	山本 悟	9～10.	平衡機能	鹿毛治子	11～14.	呼吸機能	濱本尊博	15～16.	体性感覚	鹿毛治子	17～18.	血圧、脈拍	上原奈緒子	19～22.	筋電図(表面筋電図、誘発筋電図)	藤井昭宏	23～26.	心電図	清水昭彦、田中伸明	27～30.	尿検査、血糖値検査	岡野こずえ、山本美佐
1～4.	筋力	山本 悟																													
5～8.	持久力	山本 悟																													
9～10.	平衡機能	鹿毛治子																													
11～14.	呼吸機能	濱本尊博																													
15～16.	体性感覚	鹿毛治子																													
17～18.	血圧、脈拍	上原奈緒子																													
19～22.	筋電図(表面筋電図、誘発筋電図)	藤井昭宏																													
23～26.	心電図	清水昭彦、田中伸明																													
27～30.	尿検査、血糖値検査	岡野こずえ、山本美佐																													
教科書	系統看護学講座専門基礎分野 解剖生理学 (医学書院)																														
成 績 評 価 法	期末テスト(講師別に行なう)、小テスト、レポート、実習態度などを総合的に評価する。																														
備 考	講義の順序は前後する可能性があります。																														